

平成 29 年 5 月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れた日が多くなりました。このため、北日本では旬降水量がかなり少なく、北日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多くなりました。旬の後半は日本の南海上を低気圧が通過し、西日本を中心に雨が降った日がありました。空気の乾燥や強風によって、8日には岩手県や宮城県などで山火が発生しました。沖縄・奄美では、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化しました。

中旬は、前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、12日には鹿児島県中甕（なかこしき）で1時間に100mmを超える降水量を観測するなど、大雨となった所がありました。またオホーツク海高気圧の影響により、北海道地方を中心に気温が低い日がありました。旬の後半は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れた日が多かったため気温が高くなり、20日には北・東・西日本を中心に各地で真夏日となりました。沖縄・奄美では前線の影響で曇りや雨の日が多く、沖縄地方と奄美地方では13日ごろ（速報値）に梅雨入りしました。

下旬は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多くなりました。特に21日は北・東日本を中心に各地で真夏日となり、群馬県館林では35を超え、全国で今年初めての猛暑日となりました。東日本では旬平均気温が平年よりも2.4高く、統計開始（1961年）以来5月下旬として1位となる高温となりました。旬の中頃には日本付近を低気圧が通過して、全国的に曇りや雨となりました。旬の終わりには寒気を伴った低気圧が通過し、北・東日本を中心に雨が降りました。沖縄・奄美では、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、東日本と西日本日本海側でかなり少なく、北日本と西日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、東日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本と東日本太平洋側で多く、沖縄・奄美では平年並でした。

【5月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より3ポイント高い88%で、明後日予報は例年値より4ポイント高い86%でした。各地方の適中率は、明日予報については、例年値よりも7ポイント低い沖縄地方を除くすべての地方で例年を上回り、特に四国地方では例年値よりも7ポイント高くなりました。明後日予報は近畿地方と中国地方以外の地方で例年を上回り、特に四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値よりも8ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.4小さい1.6で、全ての地方で例年値より小さく、特に東北、北陸、近畿の各地方で例年値よりも0.5~0.7小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.2小さい1.2で、全ての地方で例年値以下となり、特に北陸地方では例年値よりも0.5小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期であり、大きな災害が発生することもあります。

梅雨期は、その他の期間に比べて総降水量が多くなります。また、梅雨末期を中心に、集中豪雨により大きな災害をもたらすことがあります。このような天気が予想されている場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに留意してください。